

電力土木の歴史—第2編 電力土木人物史(その21)

History of Electric Civil Engineering - Part 2 History of Electric Civil Engineer -

稲松 敏夫

By Toshio INAMATSU

概要

筆者はさきに第1回—第11回にわたって、電力土木の変遷と、電力土木に活躍した人々を中心に、各河川の水力発電について述べ、その中で、電力土木に一生を捧げた人々のうちの代表的人物60名を発掘して、その成果をまとめ得た。さらに4年前からそのうち60名の人々の業績を、第2編 電力土木人物史として発表し、今回はその21として、最近の人々を59名、合計119名を発表する。(明治～昭和期、土木開発した人)

1. 人物史 (最近の人)

(1) 北陸電力関係

① 佐藤 源仁

1932(昭和7)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力土木部入社、有峰建設事務所材料課長、北陸電力土木部次長(富山火力発電所建設所建設担当)。

② 森 重義

1930(昭和5)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力土木部入社、馬場島建設所長、富山県土木課長。

③ 高木 良一

1935(昭和10)年 北海道大学土木工学科卒業。北陸電力土木部入社、九頭竜建設所所長、資材部長。

④ 米林 義一

1934(昭和9)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力土木部入社、有峰建設所施工課長、常願寺第三建設所所長。

⑤ 井沢 政則

1934(昭和9)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力神通川第二建設所工務課長、有峰建設所工務課長、富山火力建設所次長(土木建築課長)。

⑥ 森下 重美

1934(昭和9)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。富山支店土木課長。

⑦ 渡辺 義男

1935(昭和10)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。丸頭竜建設所、西勝原第三建設所所長。

⑧ 高柳 昇

1938(昭和13)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。池の尾建設所所長。

⑨ 上埜 安郎

1940(昭和15)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。福井火力建設所次長(土木建築担当)

⑩ 高瀬 博

1941(昭和16)年後期 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力常務取締役、土木部長。

⑪ 稲松 敏夫

1942(昭和17)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力土木部副部長、北電産業常務取締役兼土木建築部長、稲松技術士センター社長、富山県測量設計業協会会長、日本技術士会本部理事、北陸支部理事。

⑫ 岸上 重一

1942(昭和17)年 東京大学土木工学科卒業。有峰ダム建設所工務担当、手取川建設所所長。

⑬ 將亦 文雄

1941(昭和16)年後期 金沢高等工業学校土木工学科卒業。手取川調査所所長、手取川建設所土木課長。

⑭ 内田 好人

1949(昭和24)年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力土木部入社、北陸電力土木部副部長、林建設常務取締役。

⑮ 牧野 一郎

1953(昭和28)年 東北大学土木工学科卒業。北陸電力入社、北陸電力土木部副部長、日本海コンクリート常務取締役、土木部長。

⑯ 吉原 茂雄

1953(昭和28)年 日本大学土木工学科卒業。北陸電力入社、北陸電力土木部副部長、北電産業土木部副部長。

⑰ 小野 朝男

1952(昭和27)年 日本大学土木工学科卒業。北陸電

*keywords : 電力、人物、人名

** 正会員 稲松技術士センター社長 (〒658-0032 神戸市灘区向洋町中3丁目)

力土木部長、志賀原子力建設所長、日本海コンクリート社長。

⑱ 住吉 隆司

1956 (昭和 31) 年 金沢大学土木工学科卒業、北陸電力取締役土木部長、取締役、富山支店長。

⑲ 三輪 潔

1957 (昭和 32) 年 早稲田大学大学院土木工学科卒業。

北陸電力常務取締役、土木部長、常務取締役、原子力土木部長。

⑳ 山下 昭市

1957 (昭和 32) 年 金沢大学土木工学部卒業。北陸電力土木課長、日本海コンクリート土木部長。

㉑ 稲本 暁

1958 (昭和 33) 年 金沢大学土木工学科卒業。黒部川

	原子力発電所	火力発電所
北 陸 電 力	志賀	七尾大田、富山、富山新港、福井、敦賀
中 部 電 力	浜岡	尾鷲三田、四日市、新名古屋、西名古屋、渥美、知多、知多第二、武豊、碧南
関 西 電 力	美浜、高浜、大飯	姫路第一、姫路第二、尼崎第一、尼崎第二、南港、堺港、多奈川、御坊、海南、相生、赤穂、舞鶴、宮津エネルギー研究所
日本原子力研究開発機構	白木	
日本原子力発電	敦賀	
電 源 開 発		高砂

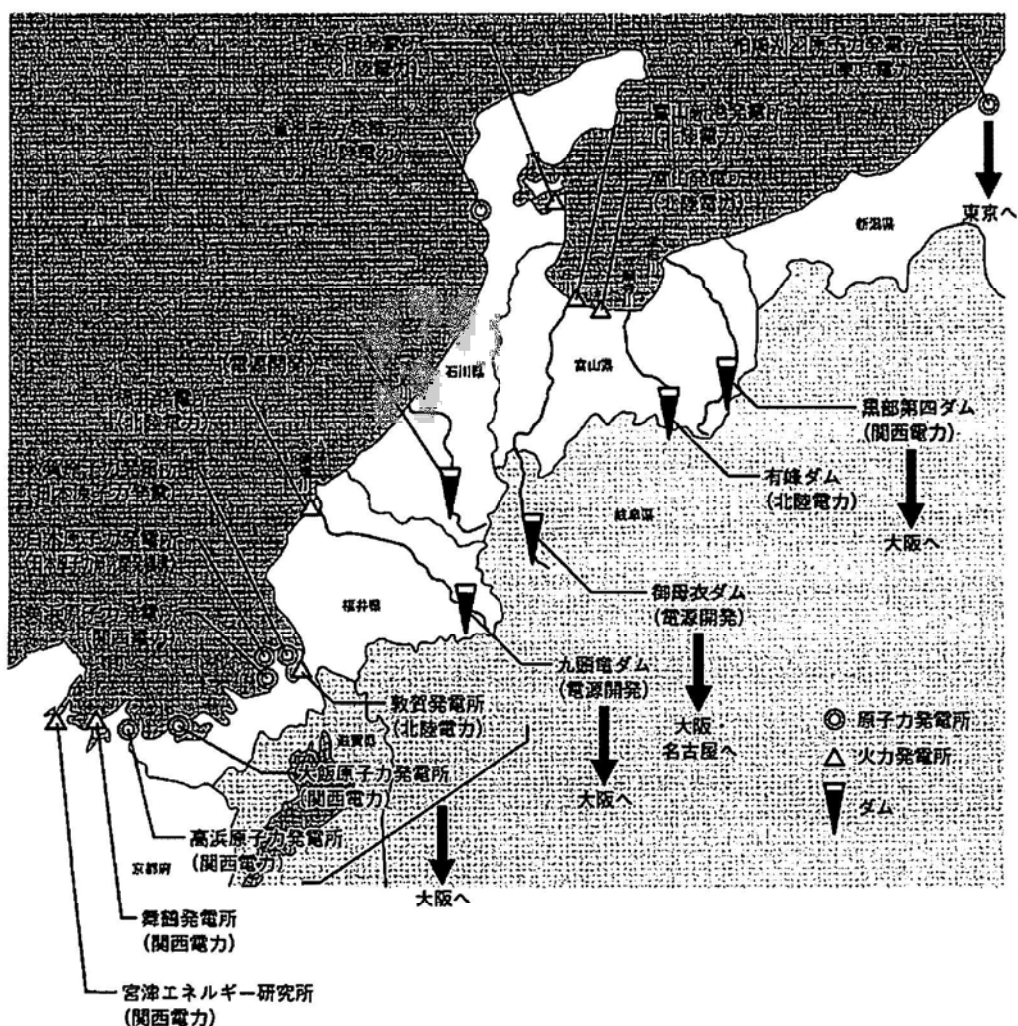


図1 北陸、関西、中部地方 発電所地点 概要図1

水力建設所長。

② 小西 一郎

1958 (昭和 33) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木部副部長。

③ 樋口 悦夫

1958 (昭和 33) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木部課長。

④ 松浦 淳

1958 (昭和 33) 年 岐阜大学土木工学科卒業。
北陸電力黒部、朝日建設事務所長。

⑤ 新畑 淳

1958 (昭和 33) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木課長。

⑥ 森田 武

1958 (昭和 33) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木課長。

⑦ 浅田 忠雄

1951 (昭和 26) 年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。北陸電力有峰ダム施工課長。

⑧ 南野 清司

1962 (昭和 37) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木部副部長。

⑨ 川口 宗一

1964 (昭和 39) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木部副部長。

⑩ 城石 日出人

1965 (昭和 40) 年 早稲田大学大学院修士修了。北陸電力志賀原子力土木海洋課長

⑪ 中井 卓

1978 (昭和 53) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木部長、北電産業社長、技術士。

⑫ 若林 正一

1979 (昭和 54) 年 金沢大学土木工学科卒業。
北陸電力土木部副部長、北電産業常務取締役。

⑬ 森井 一男

1932 (昭和 7) 年 横浜高等工業学校建築工学科卒業。北陸電力建築担当副部長。

⑭ 畠山 頼甫

1940 (昭和 15) 年 東京大学建築工学科卒業。
北陸電力建築担当副部長。

⑮ 城石 正友

1940 (昭和 15) 年 名古屋高等工業学校建築工学科卒業。北陸電力建築担当副部長。

⑯ 越智 理

1942 (昭和 17) 年 福井大学建築工学科卒業。北陸電力志賀原子力副部長(土木建築担当)、北電産業常務取締役石川支店長。

(2) 関西電力関係

① 大野 大明

1943 (昭和 18) 年 北海道大学土木工学科卒業。日本発送電土木部入社、関西電力建設部長。庄川水力新祖山発

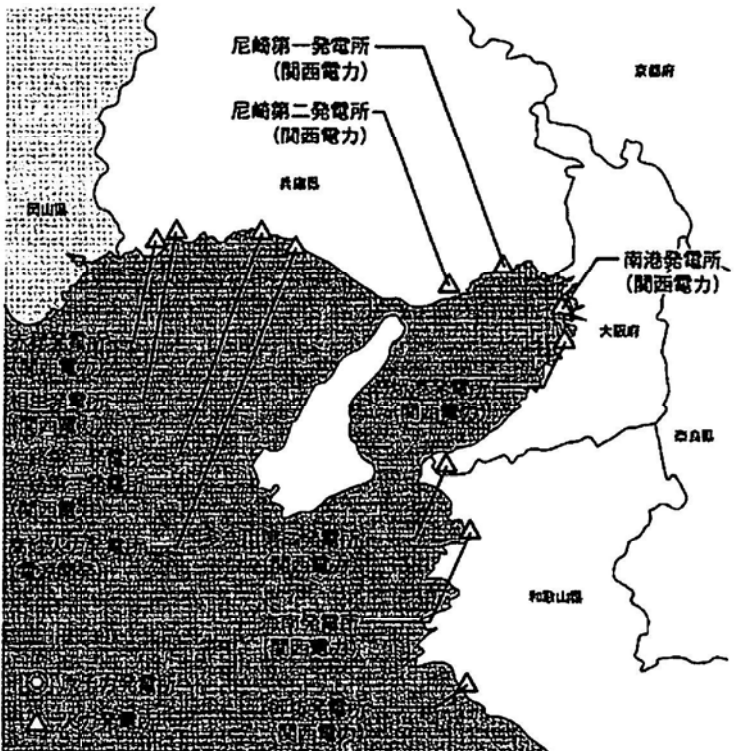
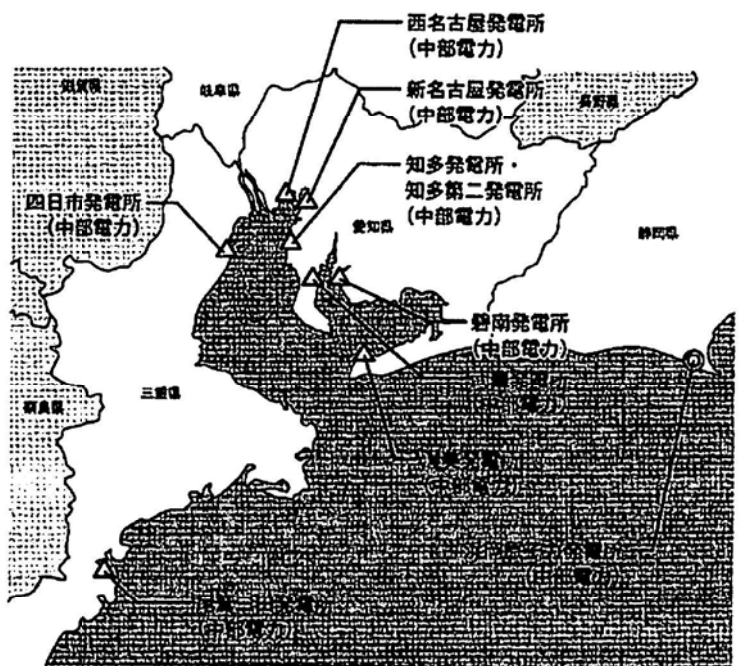


図2 北陸、関西、中部地方 発電所地点 概要図2

電所建設所長。

② 奥野 義雄

1943 (昭和 18) 年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。日本発送電北陸支社土木部入社、関西電力黒部川第四水力建設所工務課長、新黒部川第三水力発電所次長等、黒部川筋各発電所建設に尽力する。

③ 玉井 囃郎

1942 (昭和 17) 年 東京大学土木工学科卒業。日本発送電土木部入社、関西電力建設部入社。黒部川第四水力建設所次長兼土木課長、黒部川支社長勤務等、黒部川、庄川

の各発電所の建設に尽力する。

④ 大橋 一雄

1942（昭和 17）年後期 名古屋高等工業学校建築工学科卒業。日本発送電土木部入社、関西電力建設部入社、黒部川各建設工事の建築担当。

（3）中部電力関係

① 渡辺 幹雄

中部電力火力建設土木部長として、中部電力の火力、原子力の幹部として健闘し、成果を上げた。

② 菅谷 義信

日本発送電及び中部電力の幹部として、浜岡原子力調査所長、建設所次長等、一生を捧げた。

（4）北海道電力関係

① 秋谷 元

1942（昭和 17）年 北海道大学土木工学科卒業。日本発送電及び北海道電力土木部に入社、北海道電力土木部長として、北海道電力の水力、火力、原子力の調査、設計、工事に一生を捧げた。

② 梶山 義夫

大橋康次社長の娘婿。北海道電力常務取締役。泊原子力建設所長として、北海道電力の要職にあたった

（5）東北電力関係

① 北松 治男

1953（昭和 28）年 東北大学土木工学科卒業。東北電力土木部入社、只見川水力発電所の各地点の調査、設計、工事監督として尽力。父北松友義氏とともに、親子二代電力土木に一生を捧げる。

② 藤原 忠雄

1942（昭和 17）年 東京大学土木工学科卒業。日本発送電土木部入社、東北電力土木部入社、女川原子力発電所建設所長として、東北電力の原子力の初代建設所長として一生を捧げた。

③ 福西 一彦

1943（昭和 18）年 金沢高等工業学校土木工学科卒業。日本発送電及び東北電力土木部入社、新潟火力、女川原子力等の幹部として一生を捧げた。

（6）東京電力関係

① 知久 徳

1953（昭和 28）年 東京大学土木工学科卒業。東京電力建設部入社、東京電力建設部長代理として、父知久清の助氏とともに一生を電力土木に捧げた人物である。

② 白井 紋三

1943（昭和 18）年 仙台高等工業学校土木工学科卒業。日本発送電及び東京電力土木部入社、水力、火力、原子力の調査、設計、工事の指導者として一生を捧げた。

③ 石 省三

1949（昭和 24）年 東京大学土木工学科卒業。日本発送電及び東京電力土木部入社、火力、水力、原子力の調査、

設計、工事の指導者として一生を捧げた。

（7）電源開発関係

① 徳野 武

1934（昭和 9）年 東京大学土木工学科卒業。日本発送電土木部入社、北陸支店土木課長、関西電力建設課長、黒部川第四建設の調査・計画担当。電源開発御母衣水力建設所長として、調査、計画担当。初代建設所長としてロックフィルダムの建設担当。

（8）電力土木技術研究所関係

① 千秋 信一

1944（昭和 19）年 東京大学土木工学科卒業。電力土木技術研究所所長。原子力発電所、港湾関係の模型実験装置の調査、研究の世界的権威。環境問題の日本代表として活躍中。

（9）中国電力関係

① 山本 健

1957（昭和 32）年 京都大学土木工学科卒業。中国電力土木部入社、中国電力取締役土木部長。山本三男氏の長男。中国電力島根原子力土木建築担当として活躍。

② 鈴紀 喜久

1945（昭和 20）年 東京大学土木工学科卒業。日本発送電及び中国電力土木部に入社、中国電力の火力及び原子力の調査、設計、工事に一生を捧げた。

（10）九州電力関係

① 直村 徳三

1945（昭和 20）年 京都大学土木工学科卒業。日本発送電及び九州電力土木部入社、九州電力の水力、火力、原子力の調査、設計、工事に一生を捧げた。

② 武田 良平

1946（昭和 21）年 京都大学土木工学科卒業。日本発送電及び九州電力土木部入社、九州電力の水力、火力、原子力の調査、設計、工事に一生を捧げた。

③ 野田 卓郎

1947（昭和 22）年 京都大学土木工学科卒業。日本発送電及び九州電力土木部入社、九州電力の水力、火力、原子力の調査、設計、工事に一生を捧げた。

（11）四国電力関係

① 鎌田 文明

1951（昭和 26）年 東京大学土木工学科卒業。日本発送電及び四国電力土木部入社、四国電力常務取締役土木部長。伊方原子力建設所長として、四国の水力、火力、原子力の幹部として一生を捧げた。

② 垣見 浩志

1944（昭和 19）年 徳島高等工業学校卒業。日本発送電及び四国電力土木部入社、四国電力の水力、火力、原子力発電所の調査、設計、工事に尽力する。

	原子力発電所	火力発電所
北海道電力	泊共和	砂川、奈井江、苫小牧、伊達、知内、苫東厚真
東北電力	女川、東通（動燃公団）	八戸、能代、秋田、仙台、新仙台、原町、東新潟、新潟、酒田共同、新地、勿来
東京電力	柏崎刈羽、福島第一、福島第二、東通	横須賀、川崎、横浜、南横浜、東扇島、品川、大井、千葉、五井、袖ヶ浦、姉崎、富津、鹿島、常陸那珂、広野
日本原子力発電	東海第二	
電源開発		磯子

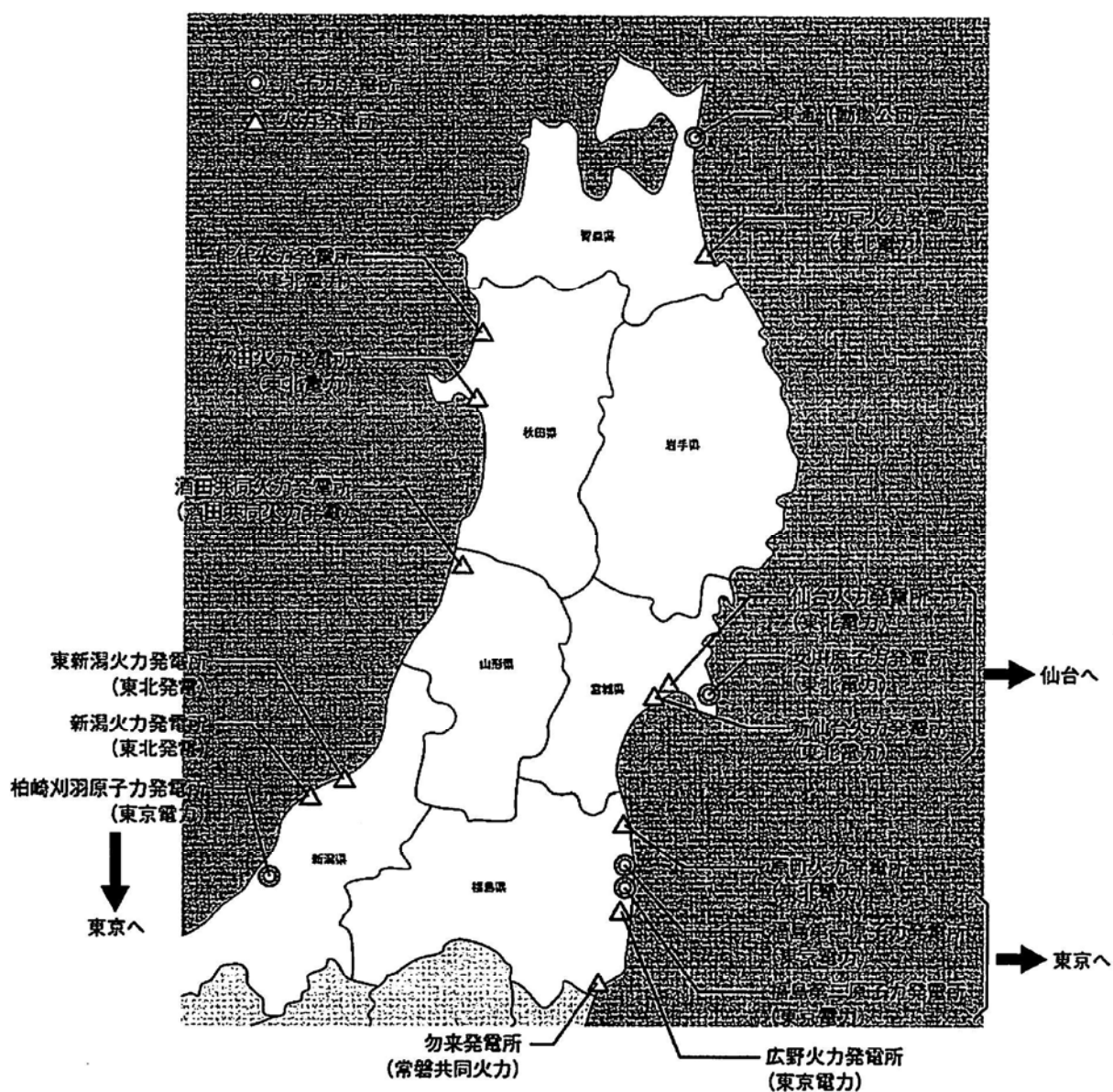


図3 北海道、東北、関東地方 発電所地点 概要図1

	火力発電所	水力発電所
中国電力	島根	三隅、水島、玉島、大崎、岩国、柳井、下松、新小野田、下関、福山共同、倉敷共同
四国電力	伊方	阿南、橘湾、西条、坂出
九州電力	玄海、川内	新小倉、苅田、豊前、唐津、松浦、新大分、大分、相浦、苓北、川内、戸畑共同
電源開発		竹原、橘湾、松浦、松島

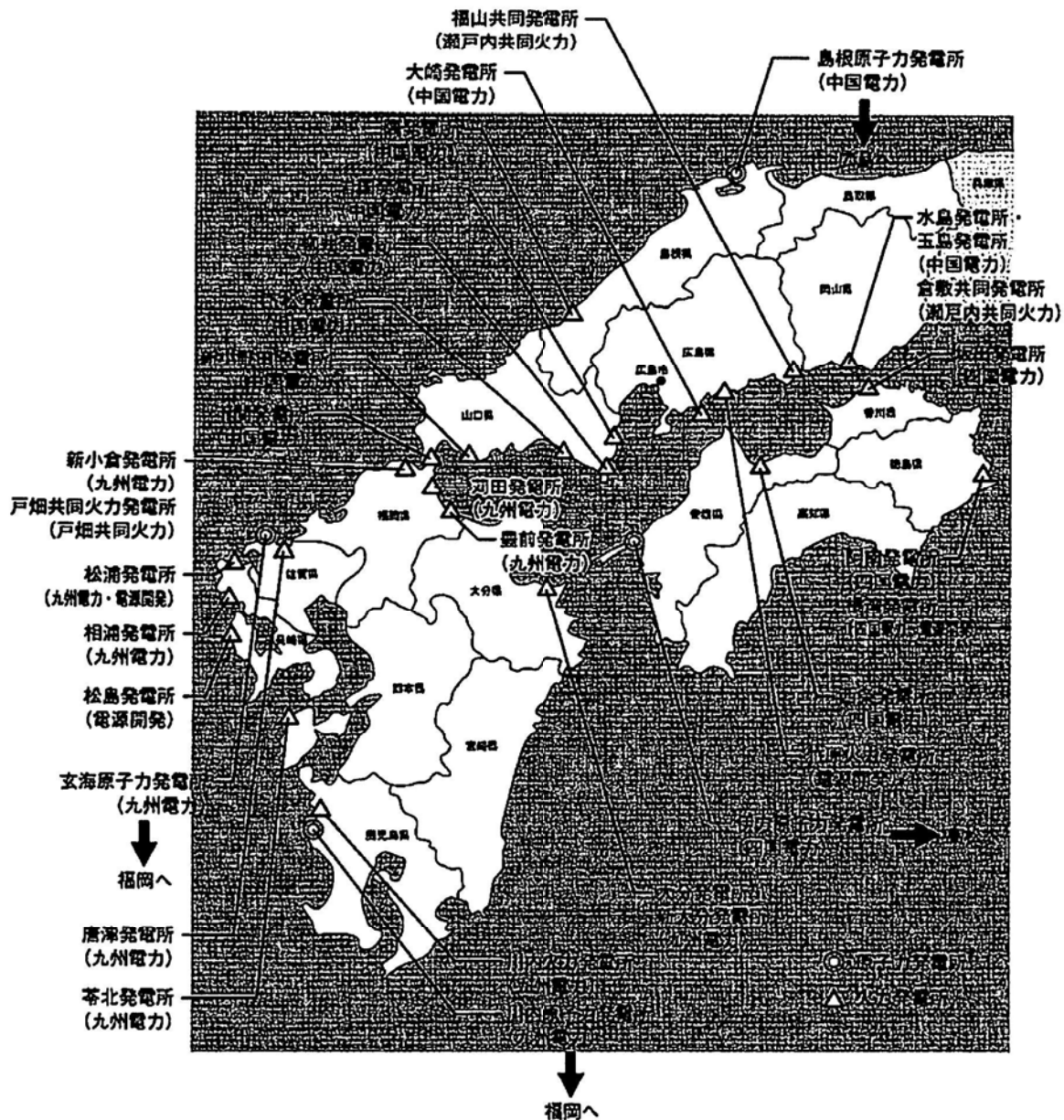


図5 中国、四国、九州地方 発電所地点 概要図

2. 電力土木人物史のまとめ

以上各地域及び勤務先別に取りまとめると、次表の通りである。現在60名。最近のもの59名を含めて、119名取りまとめて完とする予定である。

3. 知り得た成果

(1) 電力土木 120 年の人の流れの変遷

(イ) 親分、子分時代から電力会社別、地域別への流れ

(ロ) 企画、設計、施工管理会社直営から、企画、施工管理は電力会社直営、設計はコンサルタントへ委託に移行した。

(2) 親子二代の電力土木屋

①北松 (東北電力) ②伊藤 (電源開発) ③知久 (東京電力) ④山本 (中国電力) ⑤大西 (日本放送電) ⑥大橋 (北海道電力…女婿) ⑦高瀬 (北陸電力…女婿 電研) ⑧稲松 (北陸電

表1 電力土木人物史のまとめ

	地域別及び勤務先別	既発表の人名	最近のもの
①	通産省関係	(目黒 雄平) (渡辺 時也) 市浦 繁 晶山 正 野田 和郎	
②	日本発送電	内海 清温 (石川栄次郎) (永田 年) (平井弥之助) (大石 勇)	
③	電源開発	伊藤 令二 永田 年 浅尾 格 吉田 勝英 (野瀬 正義) 村上 省一 福田 克彦 前田 実	徳野 武
④	電力技術研究所	(大西 英一) (平井弥之助) 畑野 正 田中 治雄	千秋 信一
⑤	北海道電力	(永田 年) 岩本 常次 大橋 康次	秋谷 元 梶山 義夫
⑥	東北電力	北松 友義 平井弥之助 後藤 壮介 矢崎 道美 吉田 榮延 山家 義雄	北松 治男 藤原 忠雄 福西 一彦
⑦	東京電力	知久清之助 (永田 年) 水越 達雄 三村 誠三 佐藤 友光 藤井 敏夫	知久 徳 白井 紋三 石 省三
⑧	中部電力	石川栄次郎 高桑鋼一郎 藤本 得 渡辺 時也	渡辺 幹雄 菅谷 義信
⑨	北陸電力	鶴岡 孝造 和沢 清吉 大林 士一 (市浦 繁) 金岩 明 高橋 健	森 重義 高木 良一 佐藤 源仁 米林 義一 井沢 政則 森下 重義 渡辺 義雄 高柳 昇 上桒 安郎 高瀬 博 稲松 敏夫 岸上 重一 蔭亦 文雄 小野 朝男 内田 好人 牧野 一郎 吉原 茂雄 住吉 隆司 三輪 深 稲本 暁 小西 一郎 樋口 悦夫 松浦 惇 新畑 淳 浅田 忠雄 山下 昭市 城石日出人 森田 武 南野 清司 川口 宗一 中井 卓 若林 正一 森井 一男 島山 頼甫 城石 正友 越智 理
⑩	関西電力	目黒 雄平 野瀬 正義 吉田 登 東 正久 丸山 二郎	大野 大明 玉井 徳郎 大橋 一雄 奥野 義雄
⑪	中国電力	山本 三男 味登 稔 村田 清逸 泉 悟策 原文太郎	山本 健 鈴紀 喜久
⑫	四国電力	(浅尾 格) 山田 勝則 志波 勉 小沢 章三 山下 嘉治 喜多 梅記 豊嶋 幸次	鍛田 文明 垣見 浩志
⑬	九州電力	熊川 信之 中村光四郎 田代 信雄 青木 謙三 浅田 良太 中澤 直之 迫 秋一	直村 徳三 武田 良平 野田 卓郎
⑭	コンサルタント関係等	久保田 豊 (内海 清温) (熊川 信之) (中村光四郎)	
	計	60名	59名
		合 計	119名

力～息子神戸市役所土木課) ⑨森(北陸電力…親子) ⑩城石正友(息子北陸電力土木部副部長)など、親子二代の電力土木屋が多くいることを発見した

(3) 水力・火力・原子力の変遷

特に120年の電力土木の中、70年代は水力時代(ダム全盛)、70年から85年(15年間)は火力時代、85年から120年(15年間)は原子力時代となり、水力時代の土木屋の活躍の場はダム全盛時代で、ダムの各タイプの開発に各電力会社が技術を競ったが、火力・原子力時代となって、耐震設計・基礎地盤・港湾・取放水・安全審査・環境調査と、多方面に活躍の場が拡大した。

(4) 国際協力への展開

世界大戦前の北朝鮮、韓国、台湾、海南島、佛印への電力開発の国際的協力から、大戦後の南米、東南アジア、ヨーロッパへの国際協力へと展開が拡大していった。

4. 設備最大容量

原子力：40% 火力：35% 水力：25% 計100%

5. 結論

120年の間、119名の電力会社幹部と多数の電力会社社員の一生を通じた努力によって達成された、世界に誇る日本の電力土木史並びに電力土木人物史である。